「特別の教科　道徳」（道徳科）に向けてⅢ
考え，議論する道徳を目指す授業づくりと評価

授業づくりと評価とは

小学校では平成30年度から，中学校では平成31年度から，道徳の時間が，「特別の教科　道徳」（道徳科）として新しい一歩を踏み出します。

特別の教科　道徳（道徳科）において，考え，議論する道徳への転換を図っていくためには，授業づくりにおいて，まず，教師の指導の意図を明確にすることです。児童生徒の実態を把握し，どのような教材で，どのように考えさせるのかなどを明確にしておく必要があります。

指導の意図を明確にして授業づくりを行うことで，児童生徒の授業での姿を見取ること，いわゆる評価にもつながります。考え，議論する道徳を目指す授業づくりと評価について，ポイントをお示しします。

1　指導と評価の一体化とはどのようなことでしょうか。

道徳科における児童生徒の学習状況を把握し評価するためには，教師が明確な指導の意図に基づいて本時のねらいを具体的に設定し，授業の改善・充実を図っていく必要があります。

（小学校第１学年の指導例）

①　明確な指導の意図をもつ

「親切，思いやり」の価値理解を図るために，親切のよさや温かさを考えさせよう。

②　明確な指導の意図に基づき，本時のねらいを明らかにする。

おおかみに自我関与して，くまに親切にされたときの思いを基に親切のよさを考えさせよう。

③　授業を実施して児童生徒の学習状況を把握する。

Aさんは，おおかみに自我関与して，親切のよさを考えて発言していました。

↓

親切のよさや温かさを自分事として考えているな。

↓

でも，道徳的価値について，登場人物と自分自身を重ねて考える姿が十分見られませんでした。

〈授業改善へ〉

④　授業改善の視点を明らかにし，具体的な改善を図る。

発問を改善してみよう。

自分事として考える構えができていたのかな。

〈授業改善の視点〉

次の道徳の授業では，自分事として考えられるように発問や言葉掛けを工夫しよう。

⑤　授業改善の視点に基づいた授業を実施し，学習状況を把握する。

道徳的価値について登場人物と自分自身を重ねて考えていきました。

↓

自分の行いが周囲に及ぼす影響を自分事として考えているな。
道徳的価値を自分との関わりで多面的に考えているな。

7　指導事例で見る授業づくりと評価

自己評価や相互評価を取り入れ，評価の視点に基づいて見取った実践例を紹介します。
～　小学校第３学年　教材名「絵葉書と切手」　内容項目：B「友情，信頼」～

道徳的価値

児童同士が，友達のことを互いによく理解し，信頼し，助け合うことで，健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには，友達のよさを発見することで友達のことを理解したり，友達とのよりよい関係の在り方を考えたり，互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。

児童の実態

この期の児童は，活動範囲が広がることで，友達関係も広がってくる。社会科の絵地図作りを通して仲間と協力することの大切さに気付いたり，体育科のボールゲームを通して仲間同士励まし合う声掛けの仕方を身に付けたりして，集団での活動に一層喜びを感じるようになっている。しかし，自分の利害にこだわることで，友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。そこで，友達の気持ちを考えて，進んでよりよい関係を築くことの大切さについて考えさせたい。

教材の活用

仲のよい友達に定形外郵便の料金不足を教えるべきか否か迷う葛藤教材である。その心の様相を友達とじっくり話し合う中で，考えを比較したり，反対の立場に立って考えたりすることで，自分も信頼し合える友達関係を築いていきたいという思いを高めることができる。

ねらい

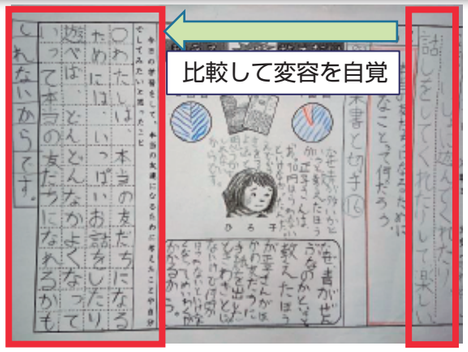
友達との関係づくりについて，互いに理解し合ったり助け合ったりすることについて話し合う学習活動を通して，相手の気持ちを考え，進んでよりよい関係を築こうとする態度を育てる。

授業の主な流れ

1　アンケート結果を見て，「本当の友達」についての認識を明らかにする。
2　めあてを立てる。
3　教材文を読み，料金不足に対する行為の選択や理由について考える。
4　話合いを生かして，自分の行為の選択とその理由をワークシートに書く。
5　「本当の友達になるために」大切にしたい考えや行為を具体的にワークシートに書き，事前の記述と比較して自分の感じ方・考え方の変容を自覚する。
6　友達の作文の読み聞かせを聞いて，実践意欲を高める。

【中心となる学習活動において期待される児童の意識や姿】
○　「本当の友達になるためには」自分の考えを明確に示し，その理由を伝え合っている。
○　事前と本時で書いた「友達」に関する記述を比較し，自分の感じ方・考え方の変容に気付いている。

【評価と指導の工夫】
「教える」と「教えない」の両方の考えを支える意義や心構えを追求させるために，赤青円グラフを活用して，葛藤する心情を赤色と青色の割合で表せるようにし，色の割合の理由を伝え合わせる。
自分の感じ方・考え方の変容を自覚させるために，ワークシートを活用して，「本当の友達になるためには」どのような心構えを大切にすべきか書かせ，事前に書いた記述と比較させる。



写真①　ワークシートを活用した変容の自覚

写真②　赤青円グラフを活用した対話

（平成29年度「道徳教育の充実に向けて（鹿児島県教育委員会作成）」実践事例から抜粋）

2　明確な指導の意図をもつとは，どのようなことでしょうか。

教師が明確な指導の意図をもつことは，道徳科の授業で期待する児童生徒の学びの姿が具体的になるので，児童生徒の学習状況や道徳性の成長に係る様子を把握するための視点（評価の視点）にもなります。

指導の意図

- **道徳的価値**　学習指導要領を基に，ねらいとする道徳的価値及び指導内容についての教師の考え方を明確にします。
- **児童生徒の実態**　道徳的価値に基づいて，これまで各教科等でどのような指導を行ってきたのか，その結果，児童生徒にどのようなよさや課題があるのかを把握して，児童生徒に考えさせるべきことを明確にします。
- **教材の活用**　道徳的価値，児童生徒の実態に基づいて，教材（資料）をどのように活用して，どのような学習を展開するのかを明確にします。

3　評価する際にはどのようなことに気を付ければよいでしょうか。

指導要録に記述することを前提にすると，以下のような留意点が考えられます。

◆　個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること。　→　一つの授業の学習状況のみを取り上げて評価しない。

【時間的には】学期や学年など一定のまとまりの中で評価する。
【内容的には】学習状況や道徳性に係る成長を見取り，評価する。

◆　相対評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて，認め励ます個人内評価として行うこと。

よい点を褒めたり，更なる改善が望まれる点を指摘したりするなど，発達の段階に応じて，励ましていく評価をする。

4　道徳科と道徳教育の評価はどのような違いがあるのでしょうか。

道徳教育と道徳科では、見取る場面や、どこに記述するかが異なることに留意します。

道徳教育　→　指導要録「行動の記録」

※　学校生活で具体的な行動に表れたことを評価する。

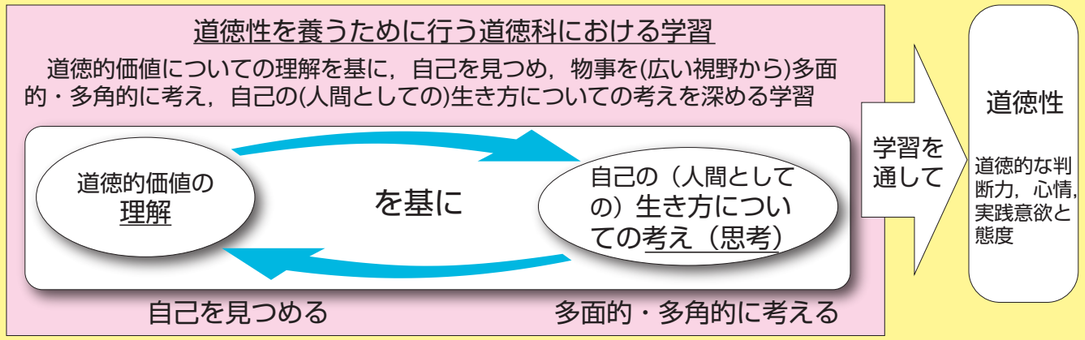
道徳科　→　指導要録「特別の教科　道徳」

※　道徳科の授業の中で表れた具体的な変容を大くくりで評価する。
※　調査書に記載しない。

5　どのような視点で評価すればよいでしょうか。

道徳科の評価については，その目標に基づき，道徳科の学習状況及び道徳性に係る成長の様子を，以下の2つの視点で見取ることが例として示されています。

【道徳科の目標】
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（中学校：広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の生き方（中学校：人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。
(学習指導要領解説　特別の教科　道徳編から)



【視点１】　道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- 現在の自分自身を振り返り，自らの生活や考えを見直している。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で，道徳的価値の理解を更に深めている。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え，考えようとしている。

【視点２】　一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか。

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え，考えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

6　発達障害等のある児童生徒等への配慮はどうすればよいでしょうか

児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮が必要です。（他人との社会的関係の形成の困難さがある児童生徒等の場合）

【道徳指導上の困難】
・　相手の気持ちを想像することが苦手で字義通りの解釈をしてしまうことがある。
・　暗黙のルールや一般的な常識を理解できないことがある。

【指導上の必要な配慮】
他者の心情を理解するために役割を交代して動作化，劇化したり，ルールを明文化したりするなど，学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要。

【配慮を伴った指導を行った結果として】
一律に発言や記述などの有無を評価することがないように留意する。例えば，授業後に個別に学習に対する思いを聞き取るなどの工夫をして，児童生徒の学習に対するよさや成長の様子を把握する。